

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会議の名称	第12回宍粟市地域創生戦略委員会	
開催日時	平成31年3月18日（月）14時00分～16時00分	
開催場所	宍粟防災センター 4階 研修室1	
議長（委員長・会長）氏名	林 昌彦	
委員氏名	（出席者） 林 昌彦、三渡 圭介、岡本 一也、玉田 恵美、 春名 千代、山田 寛、田口 すみ子、種谷 淳	（欠席者） 長田 博、古根川 淳也
事務局及び担当部氏名	宍粟市 （関係者：宍粟市人財力フル活用プラットフォーム推進会議事務局【人財力会議事務局】） 産 業 部：名畑部長 ひと・はたらく課：西岡課長、原係長 （事務局） 企画総務部：坂根部長、水口次長 地域創生課：西嶋課長、藤原副課長、前田係長、朱山主査	
傍聴人数	2名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（議題及び決定事項） 1 開会 2 あいさつ 3 報告・協議事項 （1）宍粟市人材確保・定住促進基金の活用について （2）宍粟市地域創生総合戦略の改定及び第2次戦略の策定について 4 その他 5 閉会	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認（記名押印）	（委員長等） _____ ㊟	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1 開会
委員長	2 あいさつ
委員長	3 報告・協議事項
	(1) 宍粟市人材確保・定住促進基金の活用について
	【追加資料1】【追加資料2】について説明及び確認
	—特に質問なし—
人財力会議事務局	事業主体となる宍粟市人財力フル活用プラットフォーム推進会議の設立趣旨
	取組について説明後、続けて【資料1】【参考資料1-1～5】について説明
委員	・ 実践型インターンシップの実施目的が明確でないように思います。学生の
	インターン受入により企業の問題解決に直結させるという目的では、事業が
	進まないのではないかと懸念します。外部から知恵を借りようとしている
	ようですが、企業の課題解決であれば、インターン制度でなくとも、近隣の
	大学との連携などにより目的の達成は可能ではないかと思えます。
	また、実践型インターンシップにより地元企業への就業を目的とされるなら、
	少し押しつけのよう感じます。1か月という期間であれば、学生に多くの
	市内企業を知ってもらうなどの取組をしてはどうかと思えます。
	また、定住に結びつかなければ、基金の趣旨とも異なるのではないかと思
	います。
委員	・ 学生のメンターに負担を感じることや、製造業での作業中の事故の心配も
	あり、中小企業での受入は難しいのではないかと感じます。零細企業の方が
	事業自体はうまくいくのかもしれませんが、このシステムでは参加が困難と
	思えます。
	当社でも高校生のインターンシップを受け入れており、昨年はインターン
	シップにきた生徒に就職を希望していただくことができましたが、これまでの
	経験から、インターンシップから新卒者の採用にはつなげることは難しく、
	受入企業側の魅力を高める必要があると思えます。
人財力会議事務局	→ 事業の目的が見えにくいのはご指摘のとおりかと思えます。昨年12月に実
	践型インターンシップの勉強会を開催し、市内企業に参加いただきました。

	<p>プログラムづくりのシミュレーションなど体験していただき、費用負担や安全面での条件はあるが、参加いただいた4社とも、企業にとってプラス効果が期待され、学生を受け入れたいとの意見をいただいています。</p> <p>学生がインターンするメリットは、受入企業によるところがあります。企業が抱える大きな課題の解決には向いていませんが、学生だからこそできることもあります。経営者が普段構想していたことなどをテーマとして与え、販路拡大につながった事例を聞いておりますし、学生が企業に入ること、企業の新しい価値観への気づきや、職場風土に変化をもたらすことが期待され、そういった企業の活性化が本事業の目的となります。</p> <p>また、学生と企業をコーディネートできる人材を地域の中で育成・確保することで、地元高校生と企業とのマッチング事業をより効果的に取り組むことができ、地元企業の人材確保や若者の定住にも意義あるものと考えています。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 実践型インターンシップと地域コーディネーターの養成講座は、1つのパッケージである必要があるのでしょうか。養成講座は別に実施することも可能ではないでしょうか。
人財力会議事務局	<p>→ 【参考資料1-4】地域ベンチャー留学の企業と学生のマッチングイベントの様子をご覧いただきたいと思います。実際にイベントを見に行きましたが、地域活性化に関心の高い学生が120人以上集まってきておりました。それは、イベントを主催するNPO法人の体験プログラムの品質が保障されていることを、学生の間で情報共有されていることによるものです。受入側はそれに見合う技術やコーディネート力が必要となりますので、初年度については、NPO法人とともに事業を進め、2年目以降に自分たちだけで実施していくことを考えています。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 2年目以降のマッチングイベントへの出展料や受入企業のレベルは、こちらに任されることになるのですか。
人財力会議事務局	<p>→ 出展料は20万円ほどになりますが、インターンシップ終了時点のゴールを設定するなど、チェックポイントがありますので、クリアできるようにしたいと考えています。また、参考資料にあるように、これまで多くの企業が実践型インターンシップに参加される中で、学生とマッチングしなかった企業は数件程度と聞いています。</p>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップの推進による定住促進は県内でも進めているところが少

	<p>ない中、宍粟市では取組んでいます。ヒト・モノ・カネを支援する中で一歩踏み込んだ事業かと思いますが、目標としている企業数が2社、受け入れる学生が2人となると特定の企業が対象となり、公平性という点で課題があるかもしれません。また、委託事業者のノウハウを手に入れることが必要と思いますが、学生の受入が商品開発などにつながるのでしょうか。</p>
人財力会議事務局	<p>→ 実践型インターンシップを希望する学生を直に見てきましたが、東京圏の大学に通う学生には、地域の活性化や農林業への関心が高い学生が多く存在しています。そういった若者へアプローチしていきたいと考えています。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の活性化に意識の高い学生により企業の活性化を目指されるということですが、基金事業の趣旨に沿う KPI としては、定住につながった人数になるのではないかと思います。これが最終目標になると、かなりハードルが高くなると思います。
人財力会議事務局	<p>→ 今年度、インターンシップの取組を推進してきましたが、企業への就職という面では期待するほどの効果があがっていない状況です。学生の約7割がインターンシップを経験するといわれていますが、宍粟市内の企業への就職増加は難しい状況にあります。</p> <p>実践型インターンシップにより地域の活性化に意識の高い学生を都市部から呼び込むことで、学生が都市部へ戻った後も、再度、宍粟市を訪れてくれる関係となることが期待されるとともに、短期的には受入企業の課題解決を目的としています。また、都市部において、学生同士のつながりにより、次の展開への広がりも考えられます。KPI の設定については再度検討します。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでも中小企業の企業診断や経営改善計画の作成などを支援していますので、まずは既存制度の活用を議論すべきではないかと思います。また、委託先の事業者からは課題について情報が出にくいと思いますので、実際に取り組んでいる自治体などから意見を聞いてはどうでしょうか。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【参考資料1-5】にこれまでの実績が書かれていますが、熊本県五木村、徳島県上勝町など全国的に知名度のある地域だと思います。それらと比べて、宍粟において学生へアピールする要素があるのでしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな事業を始めるときには、参加者の目星をつけておくことがあります。が、本事業に参加できる能力のある企業があるのでしょうか。

人財会議事務局	<p>→ 既存事業の地域おこし協力隊の活用やジャンプアップしそなどの就職相談会などは、継続していく必要があると考えています。委託事業者にはこれまでも多くの実績があり、投資リスクが全くないというわけではありませんが、これまでインターン実施に至らなかったケースは少数と聞いています。</p> <p>宍粟の売りは、これから作っていく必要があります。チャレンジする企業が、プログラムづくりの支援やチャレンジを見える化していきます。学生は知名度や利便性で企業を選ぶわけではなく、面白そうなプログラムを選ぶと聞いています。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職先を検討する際に、地域性という要素はあると思います。地域コーディネーターをどなたがされるのかわかりませんが、役所の方は人事異動があるので、変わってしまうのはどうかと思います。
人財会議事務局	<p>→ 地域コーディネーターの選考は、課題と認識しています。異動があっても引継ぎは可能と思いますが、継続して担っていただける人材を探すことも考えています。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商工会の経営指導員はどうでしょうか。
副委員長	<p>→ 商工会職員も、県内のどこに異動となるかわからない状況です。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場でいろいろと事業をされている中で、定住や就職につなげる打開策として本事業を見いだされたと思いますが、経費が高いことと、コストに対する費用対効果が低いことに不安を感じるのではないかと思います。5年間にどの程度の成果をあげるのかの見込みをたて、その後、今年度の成果目標を整理していただくとよいのではないかと思います。 <p>また、マッチングする学生を一定数集めることや、受入企業のプログラムをどのように打ち出していくのが難しいところですが、委託事業者には、地域企業とのコネクションがないと思いますので、行政や商工会が動かれることが多くなり、負担も大きくなると思います。その点について、人材派遣会社などの協力を得ることを考えられてはどうかと思います。</p>
人財会議事務局	<p>→ ご提案について検討してみます。地元企業にはバラエティがあり、チャレンジ精神もありますが、企業の見せ方が課題かと思います。人材派遣会社との連携についても検討します。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的にもう少し事業内容を点検していくことが必要と思います。急ぎず

	<p>ぎず、事業計画をまとめていただきたいと思います。</p>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 神戸周辺の学生を対象として企業見学を実施した、地域企業魅力発見バスツアーは今後どうされるのですか。
人財力会議事務局	<p>→ 地域企業魅力発見バスツアーは、今後も実施を予定しています。</p>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 先ほども申しましたが、実践型インターンシップに参加できる企業が少ないため、公平性について課題となることも考えられます。
人財力会議事務局	<p>→ 地域コーディネーターの負担を考えると、始めは参加企業数を多く考えない方がよいとの意見をいただいたため、現在は2社を目標としています。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 実践型インターンシップを実施するには、相当な準備が必要となります。各委員から出ている課題を整理し、事業の全体計画やプログラムをまとめていただきたいと思います。また、本事業を地元企業へアピールするにはかなりの労力を要すると思いますので、試行的に2社程度から進めていくのもよいのではないかと思います。2年目以降に、他の企業や地域へ効果が波及していくことが大事になると思いますので、長期的な視点で、継続できる仕組みづくりなど考えていただきたいと思います。
人財力会議事務局	<p>→ 人財力会議において事業のPDCAサイクルを回し、事業の点検を行っていきます。また、お配りしているチラシを見ていただきたいのですが、4月19日に開催予定の講演会にあわせ、実践型インターンシップへの参加を呼び掛けていく予定です。また、これまでも実施しているビジネスサポートを情報発信の場と位置づけ、実践型インターンシップに関するシンポジウムの開催を予定しており、本事業を企業へアピールしていきます。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 市内にどのような企業があるのか、また、どのような事業をされているのかが、あまり知られていないように思います。小・中学生などに社会見学などで、企業のことを知ってもらうことも大事だと思います。
人財力会議事務局	<p>→ 地元企業の魅力発信も考えているところです。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 追加資料2の評価については、現時点では記入が困難と思われるので、今回は記入しないこととします。基金の活用にあたっては、本日の意見を十分に勘案いただき、今後、事業内容の詳細を詰めていただきたいと思います。

	<p>います。</p> <p>(2) 宍粟市地域創生総合戦略の改定及び第2次戦略の策定について</p>
事務局	<p>【資料2及び3】【参考資料2】について説明</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宍粟市総合計画審議会条例は、廃止されるのですか。
事務局	<p>→ 宍粟市総合計画及び地域創生総合戦略委員会条例の制定附則において、同条例の廃止を規定しています。</p>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの取組により、人口減少線の角度は想定と比較してどうなっていますか。
事務局	<p>→ 人口異動の状況を見ていると、今年度においては若干ですが減少角度が緩やかになってきています。その要因については、いま分析をしているところです。</p>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間側では、人口減少が想定よりも早く進んでいる感覚があります。ロードサイドの空き店舗は借り手が見つからず、経済循環の芽が出なくなってきました。人口異動の分析結果について、7月の委員会で聞かせていただきたいと思います。
事務局	<p>→ 客観的な数値による評価と市民の感覚には、開きがあるのかもしれませんが。そのギャップをなくしていきたいと思います。次期戦略策定に向けては、仕事づくりや子育て支援、地元への愛着を醸成する取組などが重要になると考えていますが、姫路市など大きな自治体と同じようなメニューを実施していくことは市の財政上厳しいところです。森林を活かすなど宍粟市にしかならないことにより、定住につなげていきたいと考えています。</p>
	<p>4 その他</p> <p>—特になし—</p>
	<p>5 閉会</p> <p>7月の委員会で現委員の任期満了となります。肌で感じるのところと統計上の数値に、差があるように感じています。次回の委員会が最後となりますが、宍</p>

	栗市を発展させていくため、今後もお力添えをいただきたいと思います。本日はありがとうございました。
--	--